

# 厚生文教委員会 行政視察報告書

視察第一日目 奈良県天理市 2025年5月12日（月曜日）

視察先・視察項目

子育て応援・支援センター

「ホットステーション」について

## 1 概要

奈良県は北中部に位置する天理市はその中心に天理教総本山があり、宗教都市として知られています。奈良盆地として交通の便もよく住宅街が続く

面積は87km<sup>2</sup> 人口は6万人強、宗教都市として天理教からの寄付により都市計画にも関与されています。

## 2 視察目的

教育現場の離職者が多く出たことから、子育て応援・支援センターとして「ホットステーション」を設置、住民の学校に対する要望を直接学校に届けるのではなく、行政としてセンターを通じた関与をすることで、現場の状況を把握すると共に、教師たちが教育事業に集中出来る状況を作り、離職率の低下を達成している。その現場を見る事で新都市の体制を振り返る機会にしたい。

## 3 視察内容

2015年地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育委員の互選で教育委員長を決める制度から市長の任命による教育長制度になりました。

教育現場はより自治体の意思を反映させることとなりましたが、元々政教分離を目的に、政治が教育現場に入ることは避けられてきました。

しかしPTA等いろいろな方法で親御さんが教育現場に入っていく事により、育児の不安が教育現場への攻撃的な圧力に変化していくことで様々な問題がしてきました。

そして教師がその圧力にさらされることにより、教育現場が本来のパワー

バランスを崩し、教育にも支障を来すことが見受けられるようになりました。そのような状況で天理市では教師の成り手が確保出来ない問題が顕著化しました。

まずはその問題を解決する為に、市長が行政の介入が必要と認め、ほっとステーションという機関を持ちちいて、親御さんたちの育児に対する不安と教育現場を分離し整理することとされました。

本来はほっとステーションの設置が事業目的ではなく、学校設備を利用した公民館機能の統合を目論んだところ、教員の勤務体制の過酷さを理解し、教員らの働き方改革の一環として行政が引き取る業務を受ける受け皿としてほっとステーションを設置が必要であるとされました。

そこに親御さんたちのニーズに晒され、子育ての不安、それ故生み出される不信感や苦情が、教育現場を圧迫している事を確認し、これは、それらの問題と教育現場を引き離さないと整理がつかない子どもの為にならない。との思いから、行政が教育行政における不安や苦情をほっとステーションが全て受け取ることにされました。

## 4 所感

新城市でも教員のなり手不足は、問われるところであり、離職率の低下は試みる必要があります。また教育という子供たちの未来を預かる事業の中で、専門的分野であるかと思いますが、クローズドな部署にすることで救える命が救えなくなることは全国の事例でも見受けられます。

また、義務教育の中でお子様を預かる立場で受ける親御さんたちからのオーダーは、その立場を危うくする場合があります。それ故、先生方の中には問題を起こさない現場づくりのために子供たちの成長の機会を流してしまう状況があります。何をしても責められる立場は先の離職率を高め、子供たちにもいい環境も与えられません。その問題を天理市の「ホットステーション」事業は行政の積極的な介入の元解決されていました。

第三者機関と言う表現になるかもしれませんが、当事者ではなく、子供を育てる不安をどう表現してよいか悩まれている親御さん達に寄り添うことで、何より子供たちに教育を受けれる環境を提供していく事は必要であると感じました。また現在の教育現場が行政が介入できる現場であることを理解する良い機会になりました。